

2023年3月期 決算補足説明資料

株式会社 ヤギ
(証券コード 7460)

2023年5月12日

将来見通しに関する注意事項：本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

1. 2023年3月期業績

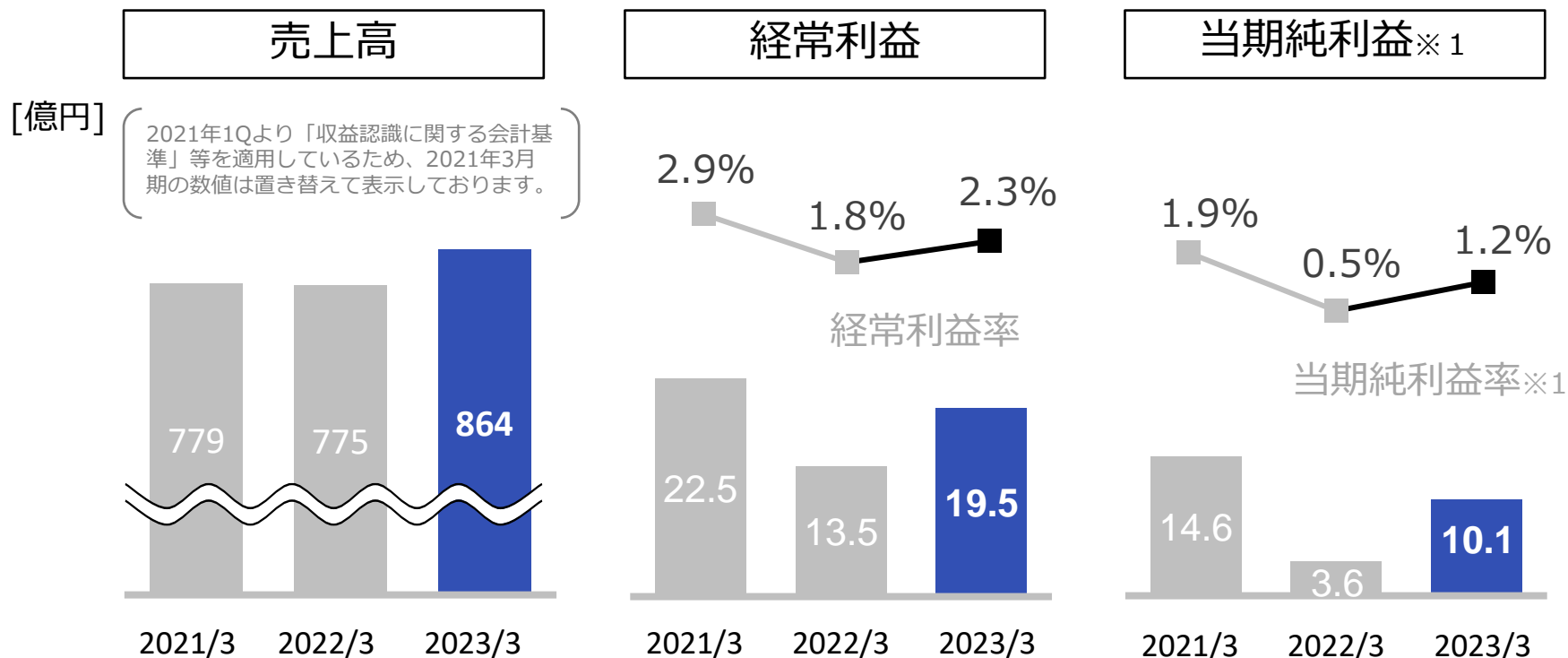
- (1) 2023年3月期連結決算の概要
- (2) 経常利益 増減要因
- (3) セグメント別 売上高
- (4) セグメント別 経常利益
- (5) バランスシートの状況
- (6) キャッシュフローの状況
- (7) 2024年3月期通期業績予想及び配当予想

2. 新中期経営計画

1. 2023年3月期 業績

(1) 2023年3月期 連結決算の概要

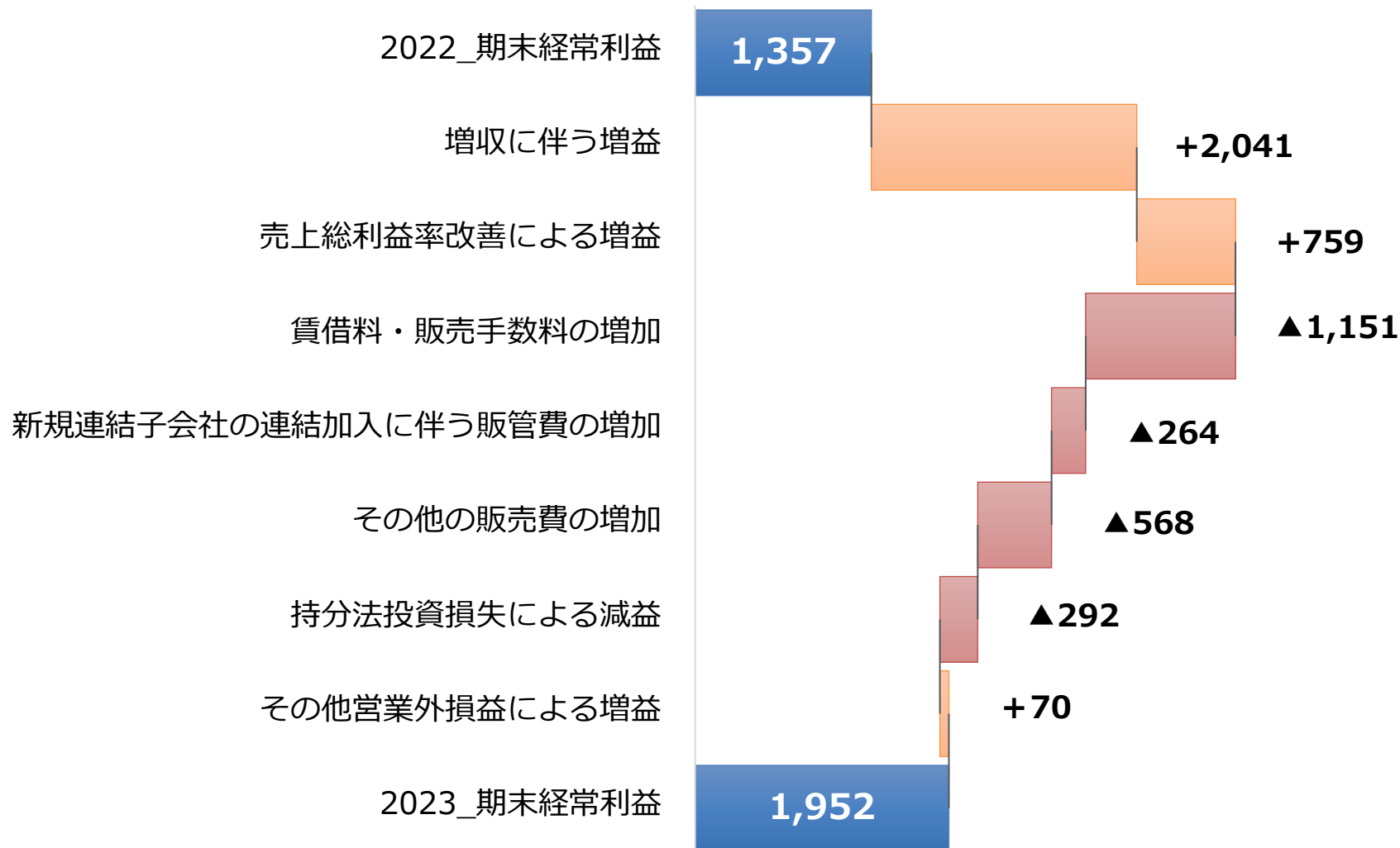
- 売上高864億円(前年同期比増減+11.5%)、経常利益19.5億(+43.9%)、親会社株主に帰属する当期純利益10.1億円(+176.6%)
- 新型コロナウイルス感染症が収束に向かう中で、世界的なエネルギー価格の上昇や原材料価格の高騰等の影響を受けたものの、グループ全体でコスト削減を強化しつつ、成長に向けて差別化商材の販売拡大やグループ経営体制の高度化等を推進したことにより、増収増益を確保



※1.親会社株主に帰属する当期純利益

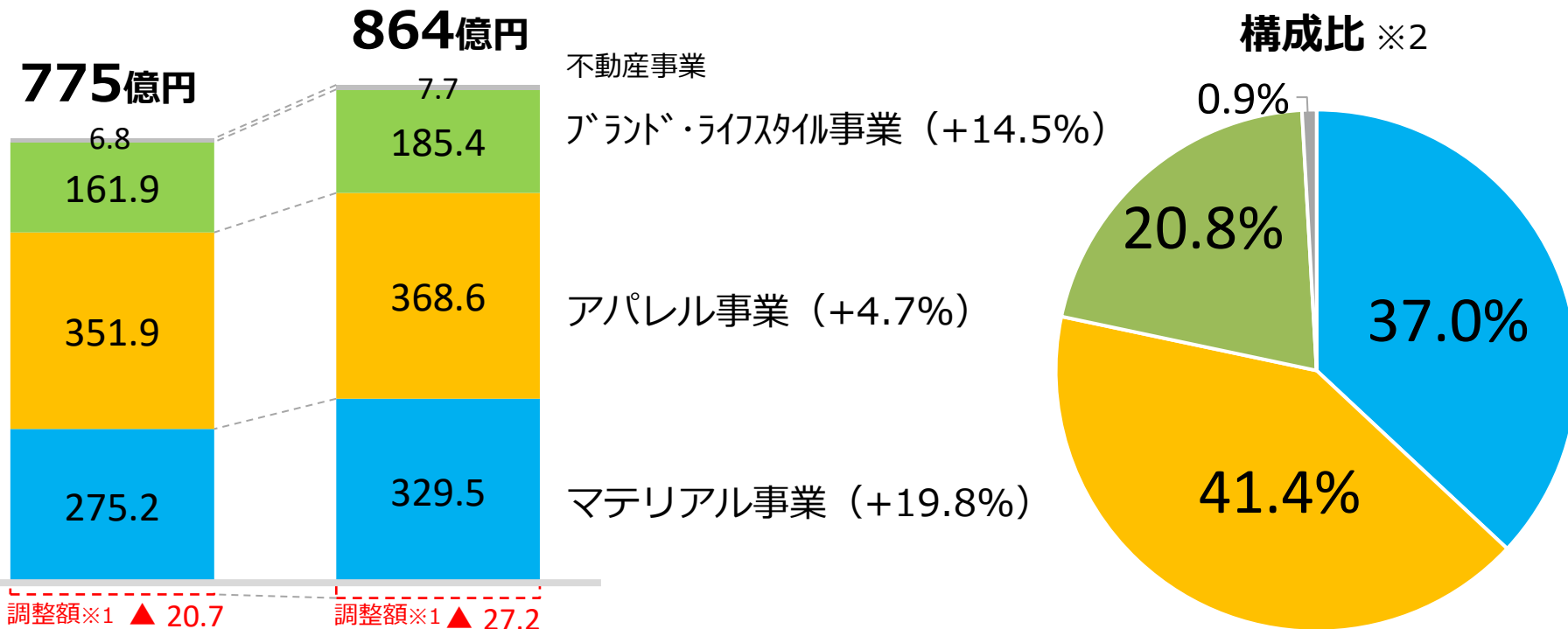
(2) 経常利益 増減要因

[百万円]



(3) セグメント別 売上高

- 売上高 864億円、前年同期比増減+88億円 (+11.5%)
- マテリアル事業は、合成繊維販売で自社加工糸が堅調に推移し、インテリア向け原料や高付加価値原料販売も比較的安定し、相場の影響も伴い増収
- アパレル事業は、徐々にコロナ禍の影響が収まり経済活動が回復基調となる中で、コスト上昇のために商品上代を上げる風潮となったことにより増収
- ブランド・ライフスタイル事業は、消費マインドの回復基調等により増収



調整額※1 ▲ 20.7

調整額※1 ▲ 27.2

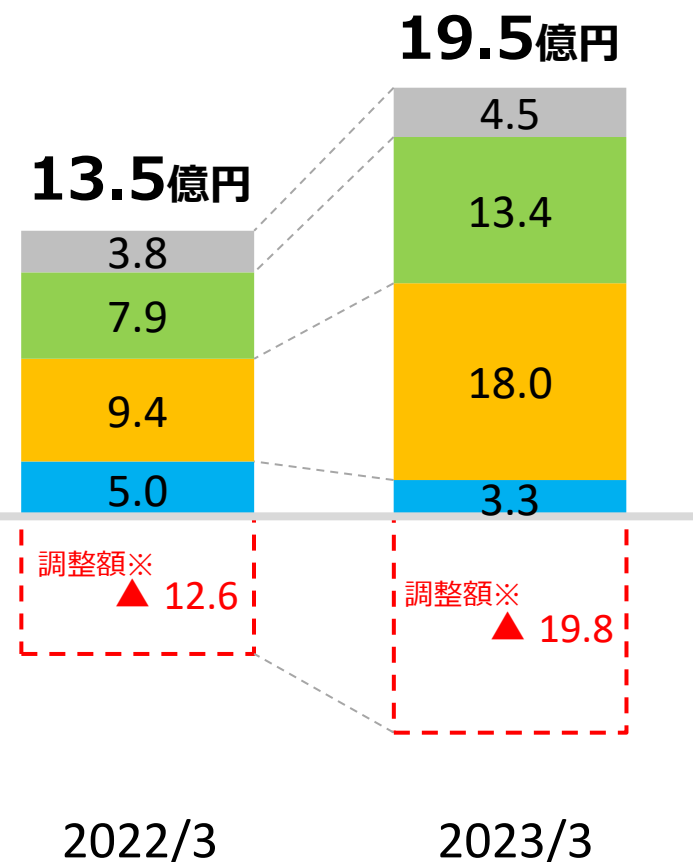
※1.売上高の調整額は、セグメント間取引消去等であります。
 ※2.構成比は調整額を除く売上高で算出しております。

2022/3

2023/3

(4) セグメント別 経常利益

➤ 経常利益 19.5億円、前年同期比増減+5.9億円 (+43.9%)



※セグメント利益または損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用及びセグメント間取引消去等が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

主な増減要因

- **マテリアル事業** 3.3億円 (前年同期比増減: ▲1.6億円)
 - ・合成繊維販売は、長引く原材料価格の高騰や電気料金の値上がり、コスト上昇分の価格転嫁に苦戦。
 - ・天然繊維販売は、前半は綿糸価格の高騰が続いていたが、後半は相場が下落に転じ商況が鈍化した影響等により減益。
- **アパレル事業** 18.0億円 (+8.5億円)
 - ・円安、原材料及び燃料価格の高騰や人件費アップにより苦戦したものの、徐々にコロナ禍の影響が収まりファッションにおいても消費意欲は回復基調。
 - ・また、川下段階で商品上代を上げる風潮となり、当事業が関わる川上・川中段階もその影響により増益。
- **ブランド・ライフスタイル事業** 13.4億円 (+5.5億円)
 - ・ブランド事業は、主力のダウンジャケットがシーズン前から実需期にわたり好調に推移。他の商品アイテムについては、前半は苦戦したものの、年明けからインバウンド需要が徐々に増えたことで回復基調。
 - ・ライフスタイル事業は、高い衛生対策ニーズに対応した商品の供給が好調に推移したことにより増益。
- **不動産事業** 4.5億円 (+0.6億円)

(5) バランスシート状況

- 現金及び預金は前期末比増減+41億円
- 自己資本は+15億円（株主資本は+9億円）
- 自己資本比率は49.7%（前期末比▲4.0pt）

[億円]

2022年3月期末

総資産 647億円

現預金 68	他負債 201
他流動資産 333	有利子負債 94
たな卸資産 90	株主資本 336
固定資産 154	
その他の包括利益累計額合計 10 非支配株主持分 4	

純資産
351億円

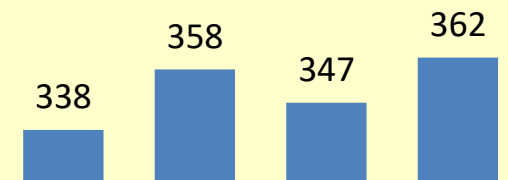
2023年3月期末

総資産 730億円

現預金 109	他負債 227
他流動資産 350	有利子負債 140
たな卸資産 104	株主資本 346
固定資産 165	
その他の包括利益累計額合計 16	

純資産
362億円

自己資本



2019末 2020末 2021末 2022末

	2021末	2022末
自己資本比率	53.7%	49.7%

(6) キャッシュフローの状況

現金及び現金同等物は、売上債権及び長期借入金の増加等により10,901百万円となり、前期比4,167百万円（+61.9%）増加

	百万円	
	2022/3	2023/3
税金等調整前当期純利益	1,012	1,672
減価償却費	571	566
持分法による投資損益	153	445
運転資本増減	3,211	▲3,761
その他	▲680	1,815
小計	4,269	737
利息・配当金・法人税等	▲1,250	349
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,018	1,087
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲1,373	▲1,061
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲2,140	3,755
現金及び現金同等物の増減額	▲417	4,167
現金及び現金同等物の期首残高	7,150	6,733
現金及び現金同等物の期末残高	6,733	10,901

売上債権の増加、棚卸資産の増加等による減少

投資有価証券の取得、貸付金の実行による支出の減少等

長期借入金による現預金の増加等

(7) 2024年3月期通期業績予想及び配当予想

2024年3月期の当社グループの通期業績予想及び配当予想は以下の通りです。
2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用しており、下記の売上高につきましては、当該会計基準等を適用した後の金額となっております。

業績予想

売上高	営業利益	経常利益	当期純利益※	1株当たり当期純利益
870億円	22億円	24億円	15億円	180円83銭

※親会社株主に帰属する当期純利益

配当予想

第2四半期末	期末	合計	配当性向
	48円00銭	48円00銭	26.5%

上記の業績予想及び配当予想は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。


2. 新中期経営計画

中期経営計画2026

Medium-term Management Plan 2026

株式会社 **ヤギ**

2023.05.12



人と社会を結び付ける、ヤギへ。

株式会社ヤギの定める

VISION

ヤギグループは人・地域・国を結びながら、マテリアルから
アパレル、ブランド・ライフスタイルに至る繊維の可能性を
イノベーションによって引き出していく

お客様の声に耳を傾け、社会と共有できる価値を
見出すことにより人々の豊かで快適な生活に貢献し、
社会とヤギグループの持続的成長を結実させていく

それを実現させるために仲間同士がたたえ合い、
健康でイキイキと働く環境を構築する

01-02	振り返り
03-06	中期経営計画2026の基本方針・戦略
07-11	事業戦略
12	グループ経営戦略
13	人材戦略
14-17	ESG戦略
18	株主還元方針

- 事業ポートフォリオにより事業セグメントに分類した経営資源配分の方針を決定
- CSV経営の足掛かりとしてSDGsマテリアリティを特定



- 売上高は、世界的な新型コロナウイルスの影響下においても維持してきたが、2023年3月期にはコロナ前の売上と比較しても成長することができた。（旧基準に修正して比較）
- 経常利益は、売上原価・物流費の高騰に加え、為替の円安の影響を挽回するまでに至らなかったが、グループ全体の成長軌道に回復の兆しが見えてきた。

図1 | 連結売上高の推移（4Y）

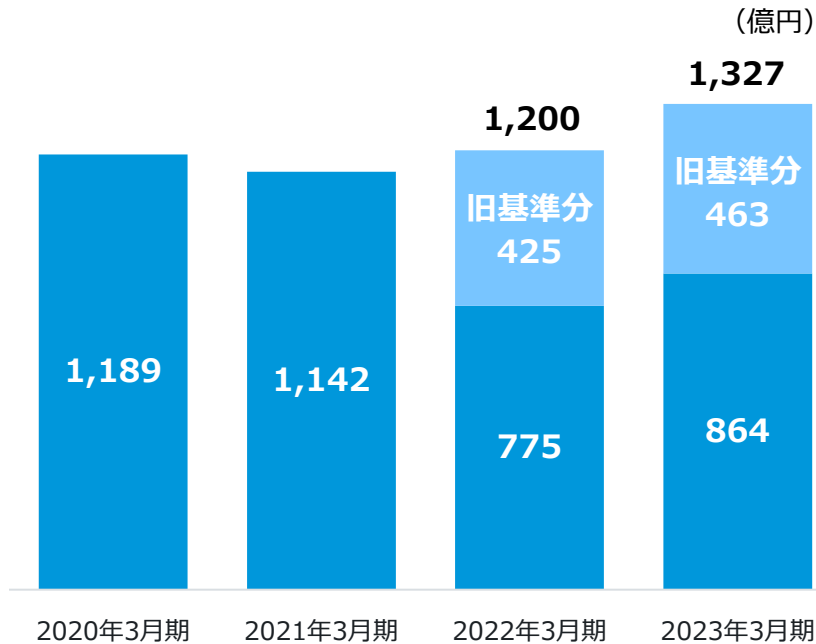
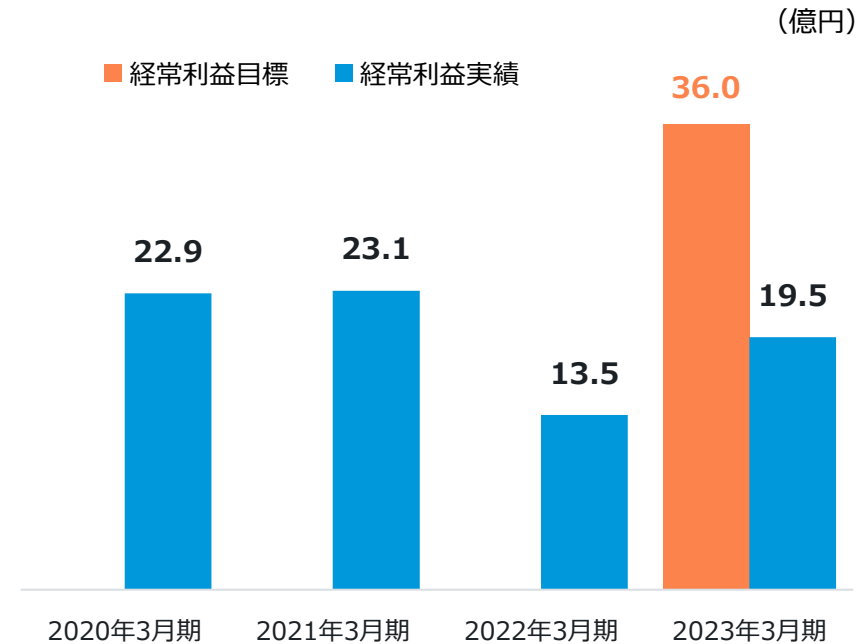


図2 | 連結経常利益の推移（4Y）



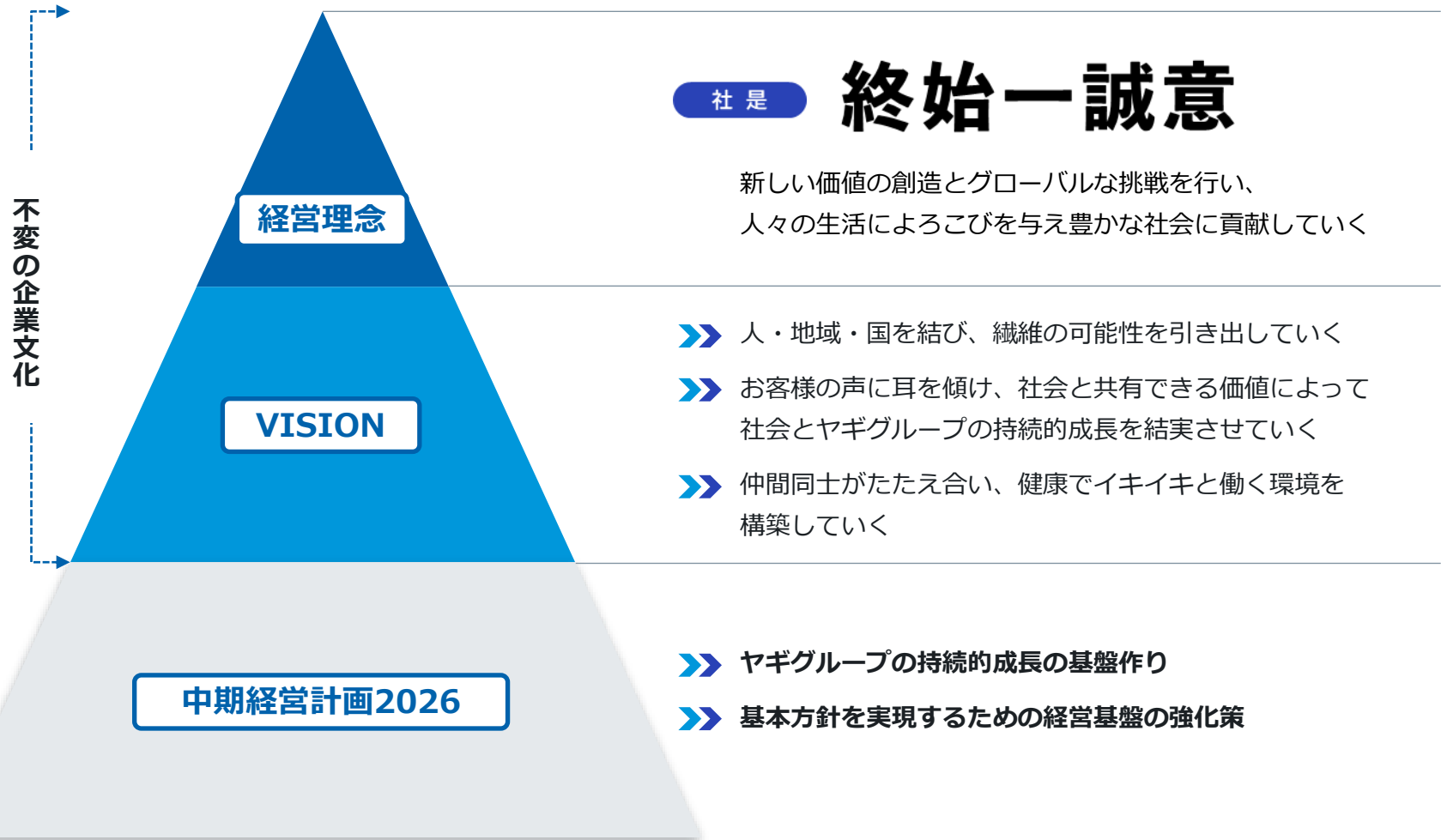
◆補足 | 2022年3月期より「収益認識基準に関する会計基準」等を適用していますが、過去との比較のため旧基準に置き替えて表示

Heritage to the future



これまで130年間培ってきたヤギのDNAによって
VISIONを実現させ、新たな未来へ紡いでいく

【基本方針】 これまで130年間培ってきたヤギのDNAによってVISIONを実現させ、
新たな未来へ紡いでいく



ヤギグループの持続的成長の基盤作り

経営基盤の強化策

事業戦略

- セグメントグループでの収益力強化
- ポートフォリオでの選択と集中

グローバル戦略

- サステナブル・ブランド・デジタルの3つの視点でグローバル展開

グループ経営戦略

- グループマネジメントの進化
- グループ内のDX基盤の構築

人材戦略

- グループ人材や組織制度の連携強化
- 人材活性化環境の整備

ESG戦略

- CSV経営の実践
- コーポレートガバナンスの強化

- 事業セグメントと連動した業績管理の強化による収益性の向上
- 成長・重点ビジネスへの効果的な投資による資産効率の向上

2026年3月期 連結財務指標

成長性

売上高

950億円

平均成長率
3.0%

収益性

経常利益

32億円

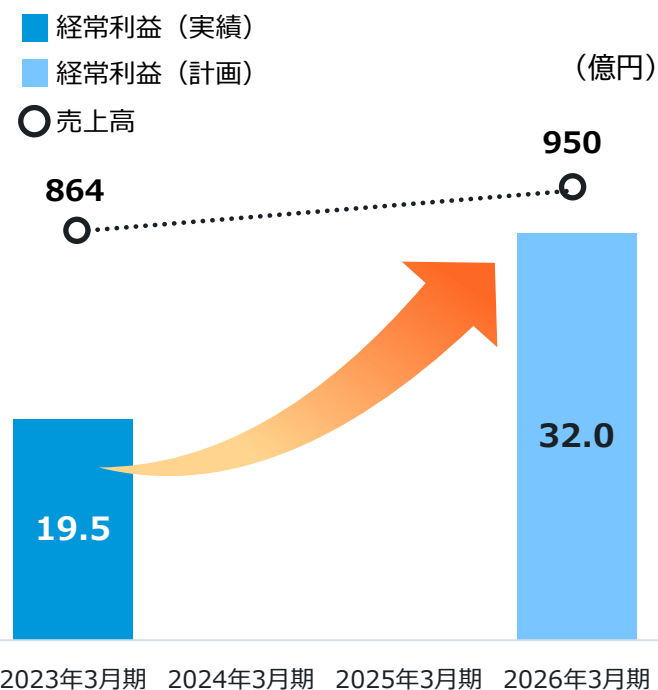
利益率 3.3%

効率性

資本効率

ROE 6.0%以上

中期計画目標(連結)



- 現行のセグメント体制であったマテリアル事業、アパレル事業、ブランド・ライフスタイル事業から市場・顧客ニーズの変化に対応するために4つのセグメント経営体制に改め、更なる収益性の向上と持続的成長を目指す
- グループ企業を横断した事業セグメントを、サステナブル・デジタル・グローバルの視点で強化

01. マテリアル

連結売上高 **345** 億円 成長率 **105%**

グループ企業

- 株式会社ヴィオレッタ
- 山弥織物株式会社
- イチメン株式会社
- 八木香港有限公司

02. ライフスタイル

連結売上高 **110** 億円 成長率 **110%**

グループ企業

- 日本パフ株式会社
- ツバメタオル株式会社

03. アパレル

連結売上高 **400** 億円 成長率 **109%**

グループ企業

- YAGI VIETNAM COMPANY LIMITED

04. ブランド・リテール

連結売上高 **95** 億円 成長率 **112%**

グループ企業

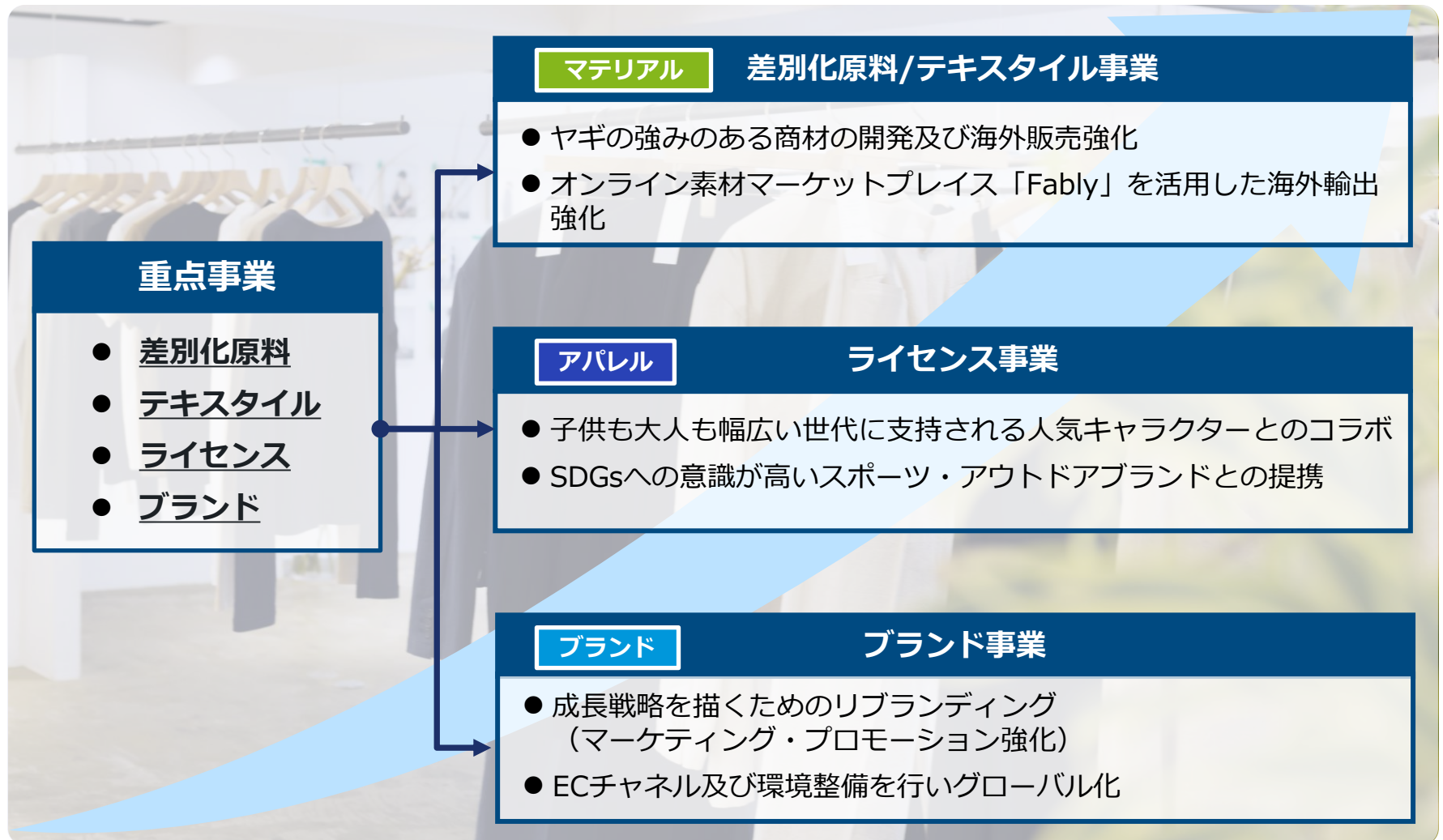
- TATRAS INTERNATIONAL株式会社
- 株式会社アタッチメント

サステナブル
デジタル
グローバル

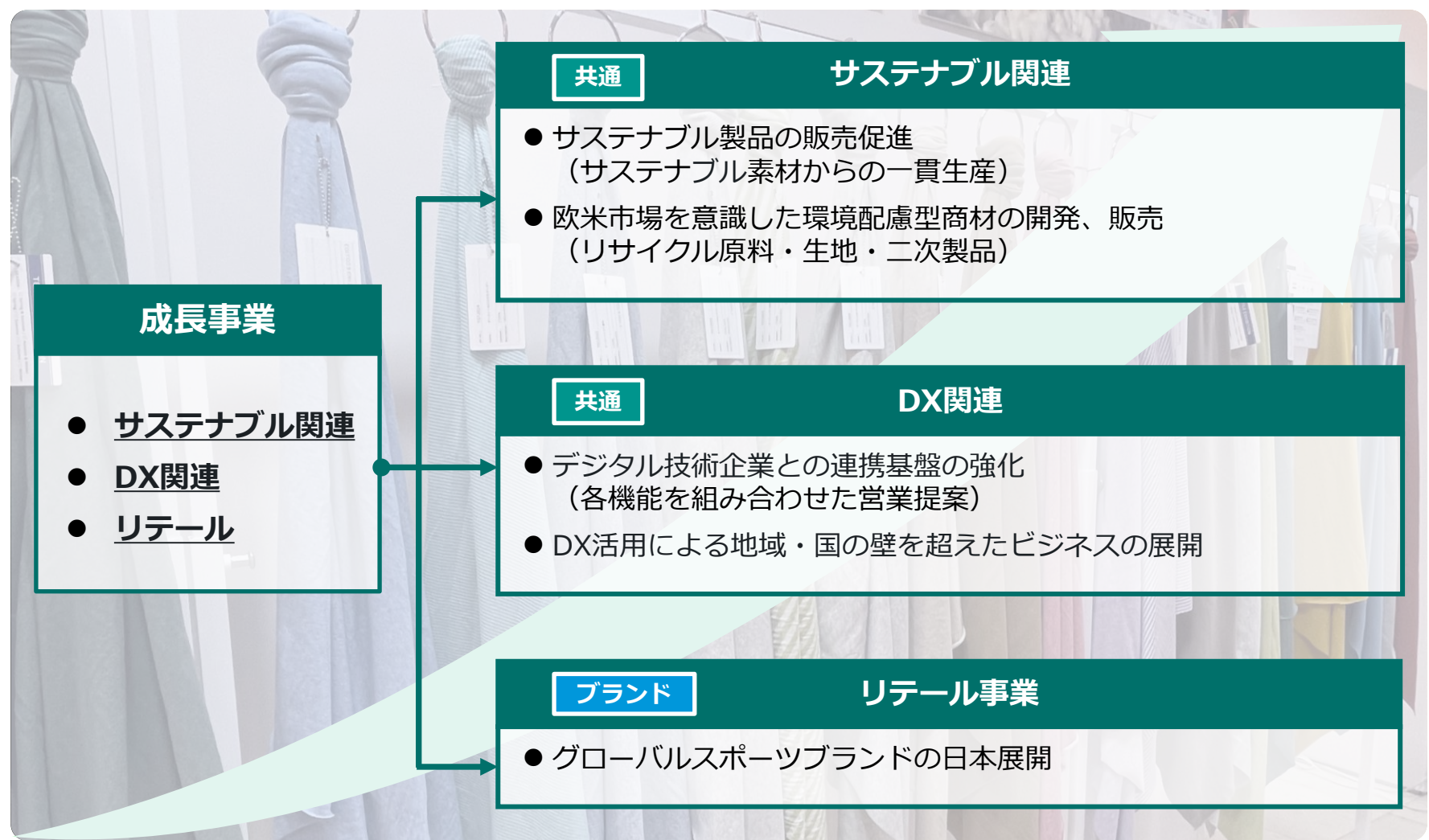
- 事業ポートフォリオを基に、事業の選択と集中を実行
- 成長市場に対して、ヤギの強みを活かした事業の強化



- マテリアル事業は強みであるサステナブル系素材の開発・販売の強化
- ブランド事業のブランディング強化、EC活用によるグローバル展開推進



- サステナブルな社会の実現に向けた価値の創出
- DXを活用した繊維産業におけるイノベーションの実現



- サステナブル、ブランド、デジタルの3つの視点からグローバルビジネス拡大にチャレンジ

サステナブル

差別化原料やリサイクル原料の開発により、
欧米を中心に展開強化

グローバルビジネスの 拡大

ブランド

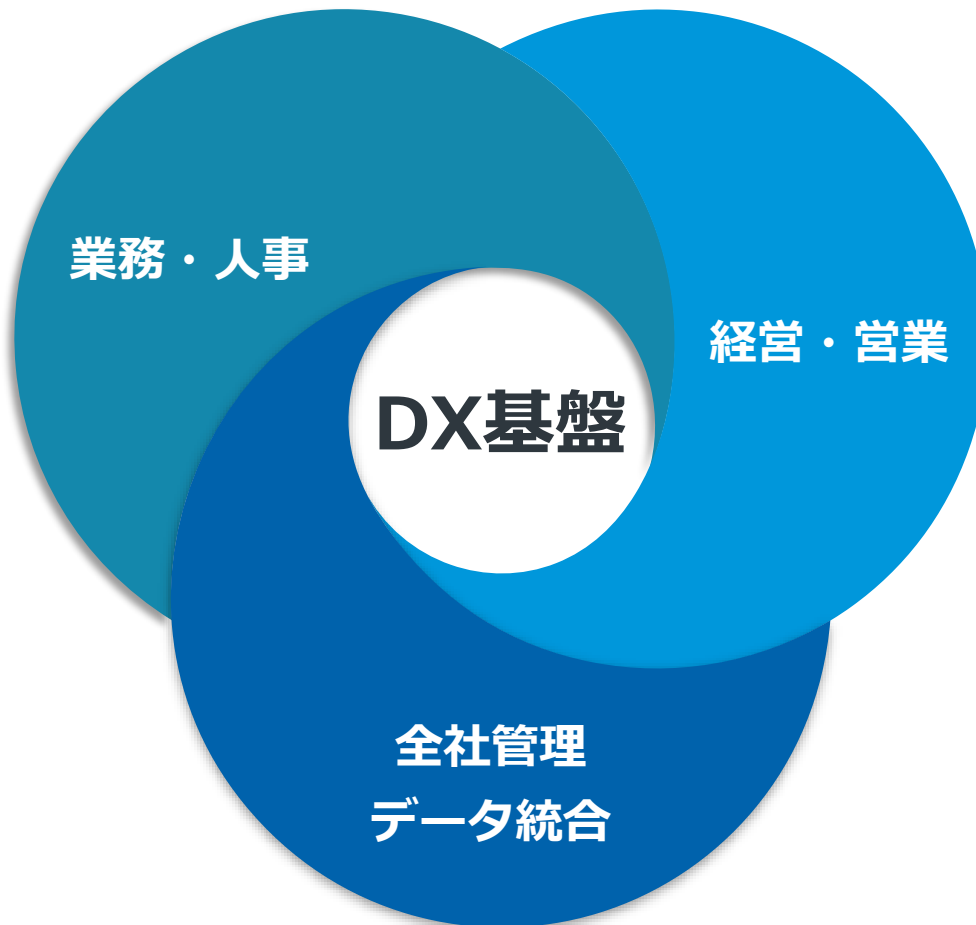
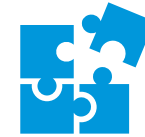
日本で実績のあるブランドを
EU・アジアへと展開強化

デジタル

デジタル技術を活用した取り組みを展開し、
デジタルと繊維ビジネスの親和性を強化

- 業務オペレーションのDX推進による生産性の向上
- データ活用による意思決定スピードの向上

グループ経営を進化させるDX基盤の構築



経営・営業

- 経営に活かすデータ基盤構築
- 営業効率アップのためのDX推進

業務・人事

- 生産性を向上させる業務DX推進
- 人材を活性化させるシステムの活用

全社管理・データ統合

- グループ内データの統合
- 業績管理のスピードアップ

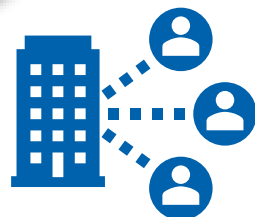
- 人材の質と量の中長期的に維持・向上できる仕組みづくり
- 長期的な競争優位性を実現させる組織力のステップアップ

チャレンジできる環境整備

働きやすい環境整備

人材活性化環境

- 人事制度の刷新
- グループ横断での人材活用



- 健康経営の実践
- ダイバーシティ環境整備



- サステナブル事業を通じた活動を継続
- CSV経営の実現により環境問題に貢献

サステナブルな社会実現へ貢献

CSV経営の実践

自社と業界のDX

社会・地域との共創

ミッションステートメント



持続可能な企業
であるための
環境改善



持続可能な
未来のために
環境問題を解決



未来のライフ
スタイルへの提案



企業の
社会的責任

社会価値への取り組み

ESG領域	課題の目的	重要課題	SDGs目標
E	サーキュラー エコノミーの実現	① 持続可能な資源の有効活用	 
		② サークュラーエコノミーの実現	
	イノベーションの創出	③ DXの推進	 
		④ 新技術の研究/開発への投資	
S	ワークライフバランスの実現	⑤ 従業員のメンタルヘルスケア	 
	ダイバーシティ & インクルージョンの実現	⑥ 長時間労働の是正	
		⑦ 多様な働き方の推進	
	女性の活躍推進	⑧ 人材の多様性の確保	
		⑨ 女性の平等なリーダーシップの機会を確保	
G	ガバナンスの強化	⑩ 女性が働き続けられる労働環境の整備	
		⑪ サプライチェーンマネジメントの推進	

● 優先課題 ● 環境 ● 社会 ● ガバナンス

- 当社独自の「YARN PROJECT&SEED PROJECT」への取り組み継続
- オーガニックコットンの流通によるサステナブルな社会への貢献

当社独自の取り組みによる サステナブルな社会実現に貢献

Material マテリアル

優れた機能性や環境配慮型の原料・素材

Textile テキスタイル

国際認証に基づき
エシカル・サステナビリティを考慮した商品

Product プロダクト

機能や環境配慮に特化した製品展開
ODM・OEMにも対応

Project/Platform プロジェクト/プラットフォーム

パートナーと共に社会貢献する仕組み
繊維業界をテクノロジーでつなぐ仕組み



- DX推進による業界のサプライチェーンの効率化を目指した出資先との連携
- 3D技術の活用による生地を選択からサンプル、生産管理に至るまでのDXをリードすることによる、繊維業界の環境負荷低減への貢献



- コーポレートガバナンスの強化により、ヤギグループとしての企業価値向上を目指す
- 社是「終始一誠意」ならびにVISIONを基本としたコンプライアンスの徹底

企業価値の向上

コーポレート ガバナンス

グループ企業への監査機能の強化

リスクマネジメントの強化

コンプライアンス

社是・VISIONと一致した行動

法令順守の徹底

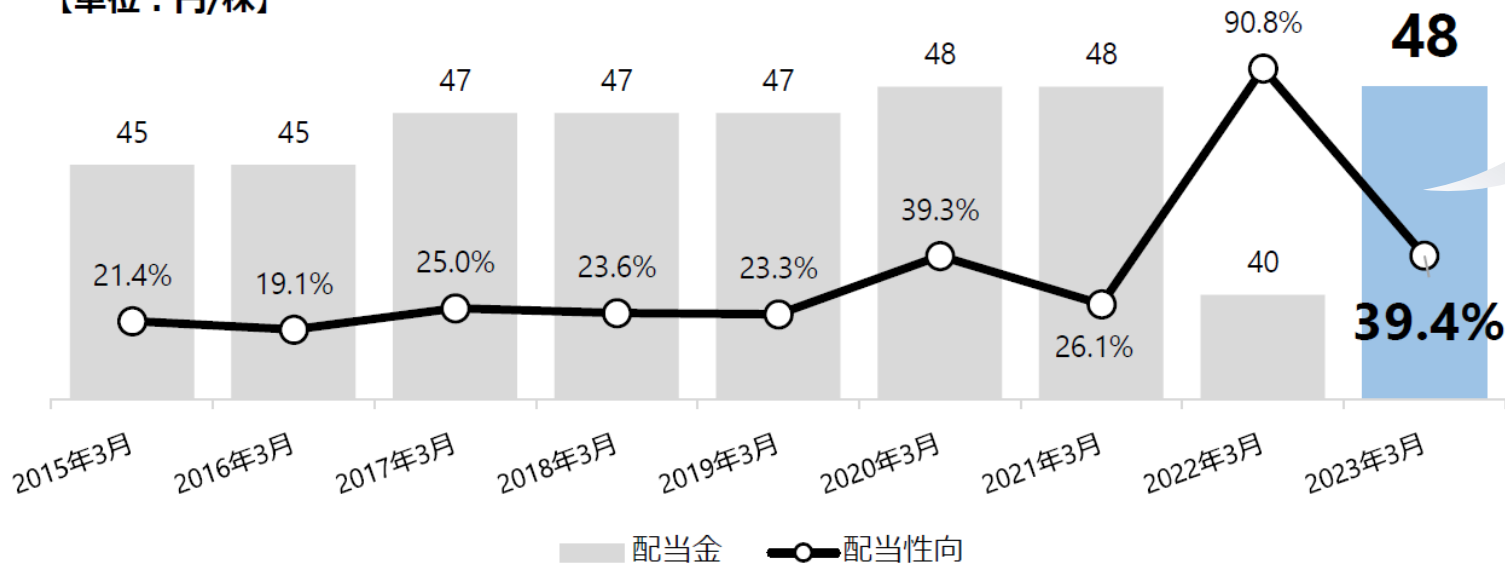
- 株主の皆様への利益還元を、経営の最重要政策のひとつとして位置付けております。
- 配当につきましては、長期的な視野で安定した利益還元と、経営基盤強化のための内部留保充実をバランスよく行っていくことを基本方針としております。

配当金の推移

中期経営計画2026
配当最終年度目標

配当金50円以上

【単位：円/株】





Heritage to the future

本資料は、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に掲載された将来の予測等は、発表の時点で入手可能な情報に基づいたものであり、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、及び将来の業績を保証するものではありません。

従いまして、本資料のみに準拠して投資判断されますことをお控えくださいますようお願いいたします。

本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。